

能登町
伝説探訪

恋路の悲恋伝説

かがり火が照らすラブロード



700年前の悲恋物語を今に伝える

伝説の地「恋路」

鍋乃 助さん海がきれいね♡
 助三郎 そうだね♡ところで鍋乃さん、今年の「火祭り」はよかったね♡。何でも「火祭り」を取材にきた広報マンが広報「のと」で恋路の特集するそうだよ。

という会話が聞こえたような気がして、伝説の地「恋路」を歩くことにした。

尾之崎のレストハウス前に車を止め、遠く見附島を眺めながら海岸線を砂浜へと歩く。途中、観音坂と呼ばれる路地に入り、恋路観音堂を目指した。急な坂を上ると案内板が目に入る。案内板に従い参詣道をさらに上るが結構きつい…。丘の上には観音堂と伝説碑があった。下記の伝説は碑に記されているものである。お堂と碑があるその場所は、丁寧に草刈りがされている。伝説を大切にしている地元の人の心を垣間見た。

旧国道に戻り砂浜に到着。まず恋路観音像と伝説のブロンズ像が目に入った。このブロンズ像は、恋路出身の日展作家、故坂担道氏の作品で、札幌羊ヶ丘展望台の「丘の上のクレーク像」の制作者でもある。ボーイズビーアンビジャス！（少年よ大志を抱け！）である。当時坂氏が像の原型を北海道から輸送したが、輸送中に壊れたらしく、すぐに坂氏が北海道からかけつけて修理したという逸話があるそうだ。

砂浜に降りて弁天島を望む。いつみてもすばらしい景観だ。弁天島のお堂にも坂氏の手による弁天様が安

悲恋伝説の地『恋路』を歩く！！



源平戦乱の頃、平家の落武者谷坂小平次なる者、この里に来て刀を捨てて百姓となり細い暮らしの煙をたてていた。その頃からこの付近を小平次の里と呼ぶようになった。

木郎の里（現在の不動寺付近）の助三郎は、釣好きの若者で、いつもこの浜で釣を楽しんでた。また多田の里（現在の珠洲市宝立町）に鍋乃という美しい娘がいたが、ある日汐干狩りをしていて誤って溺れかかっていた所を助三郎に助けられ、それより二人は深い恋仲となり、人目を忍んでこの浜で逢瀬を重ねていた。月の無い暗い夜は鍋乃の焚くかがり火が助三郎への合図であり、愛し合う二人の希望の灯でもあった。

鍋乃に想いをよせるもう一人の男源次は二人の仲を如み、助三郎さえいなればと思ひこみ、ある夜灯を崖の外れに移して助三郎をだまし、助三郎は足を踏み外し深い海に沈んで帰らぬ人となった。それを知った鍋乃も源次の求愛を退けて海に身を投げ、助三郎のあとを追った。

小平次の里の丘の上に小さな観音堂がある。この無住の堂にいつの頃からか一人の老僧が住み着くようになった。この僧こそ改心した源次その人であった。若き日に男女の仲をさいて死に至らしめた過ちを悔い、以後仏弟子となって二人の菩提を弔いつつ、諸国を修行して故郷に帰ったのである。

愛欲・嫉妬に苦しんだ若き日々を省み、男女の仲を取り持つことしばしばであったので、いつしか縁結びの観音堂といわれ、この堂に参詣する二人は必ず結ばれると伝えられて久しい。その頃から、誰いうとなく小平次の里と呼ばないで「恋路」というようになったと伝えられている。



1 丘の上にある観音堂は2回移転していて、中には坂担道氏による観音像が安置されているそうです。別名「縁結び観音堂」とも呼ばれています



2 ブロンズ像の横には恋路観音像があります



3 弁天島の右からは男波が、左からは女波が菱形に交わります



4 恋路海岸の特徴の一つである奇岩は、鍋乃島など伝説にちなんだ名前がつけられています



5 恋路から見える見附島もすばらしい



置してあるらしい。この弁天島を境にして、木郎の里（向かって右）からよせる男波、多田の里（向かって左）からよせる女波とが相互して打ち寄せ菱形を描くことから、菱男波、菱女波と称している。恋路は波までロマンチックであると思っただ。

さらに砂浜を歩くと大きな岩が3つ目に入る。恋路海岸といえば奇妙な形の岩。地藏岩、高岩とあり、高岩のほずれにある小さな島を鍋乃島という。また砂浜の砂を泣き砂、磯辺に流れる水を怨みの滝と呼ぶなど伝説に関係する名称がたくさんある。やはり恋路は伝説の地と呼ぶにふさわしい。

恋路伝説のもう一人の主人公は源次である。源次なくして伝説なしのようにも思えるのであって主人公と呼ぶ。源次は鍋乃が好きだった。心から愛していた。愛するが故に二人を死にいたらしめてしまった。自分が犯した過ちを悔いた源次は、その後の人生を二人の供養に費やした。この源次が観音堂を建立して、毎年お盆（7月17日）の夜に弁天島と高岩に松明を焚いて渚を行きつ戻りつ夜の明けるまで読経を続けたという。

いつの日か恋路の人は、この7月17日を観音様の日として、弁天島にかがり火を焚き、灯ろうを流し、キリコを海に担ぎ入れて、柱松明と花火で海を彩る火祭りを行うようになった。（※に傳はれでる日）

この世ではかなわなかった二人の霊を慰めるために。この伝説を後世に伝えるために。

助三郎 僕たち二人のことを700年以上も伝えてくれた恋路の人に感謝だね。おかげでたくさんの方が会いに来てくれるし、こうして毎日一緒にいることができるしね。

鍋乃 本当そうよね♡。これからも二人で恋路と能登町の未来を見守りましょ♡ね。

助三郎 それさっきも言ったよ…